



学科の紹介

社会基盤学は、私たちの日常生活を支える技術体系です。たとえば道路や公園、橋、駅や鉄道、物流や情報通信施設、電気や水道などのライフラインは、現代の都市生活に欠かすことはできません。一方、都市をはなれて川や海、美しい山々を訪ねれば、そこも快適で豊かな自然環境を維持・保全していくための社会基盤技術が存在しています。

現代の生活は、人間が技術を利用して周囲の環境を改善したり保全することによって成り立っています。社会基盤学とは、私たちが文明的・文化的な生活を営むために必要なあらゆる技術を含み、人間が人間らしく生きるための環境を創造する大切な役割を担っています。社会基盤学が見据える環境は、身近な生活空間から地球環境に至る壮大なスケールの広がりを持っており、それを支えるシビル・エンジニアにも多様性が求められています。社会基盤学科では、国内外での次代のニーズに柔軟に対応できる多彩で個性的なシビル・エンジニアの育成を目指しており、皆さんの個性や資質を生かせる場所がきっと見つかるはずです。



カリキュラム紹介

多彩で自由度の高いカリキュラム

講義・演習・実習を軸にした体系的なカリキュラムを用意していますが、関心ある分野を各自で主体的に学んでほしいという意図から、必修科目を「社会基盤プロジェクト（卒業研究）」と「フィールド演習」のみとし、他学科・他学部の関連講義科目の履修への自由度を高くしてあります。

カリキュラム構成は (A) 設計・技術戦略、(B) 政策・計画、(C) 国際プロジェクトを三本柱に、シビル・エンジニアとして必須の工学基礎科目や、人文・社会・自然に関わる教養的科目、計画方法論や開発経済学、国際交渉などの実践的科目をバランスよく配置し、さらに講義で得た知識を演習や実習を通じてより実践的な職能へと昇華させるプログラムとなっています。



2・3年生の時間割例

2年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 入門

	月	火	水	木	金
1限					
2限	基礎流体力学	社会技術論	構造の力学	水理学	社会基盤史
3限	基礎技術設計論 I	基礎技術設計論 II	材料の力学	国際プロジェクト序論	基礎技術設計論 I
4限	数理分析の基礎	基礎経済学	社会基盤学序論	数学 1E	数理分析の基礎
5限	基礎情報学	水圏デザイン基礎		基礎情報学	導入プロジェクト

3年 S1S2 (左がS1、右がS2) : 基礎の完結と演習

	月	火	水	木	金
1限		開発とインフラ	交通学		開発とインフラ
2限	マネジメント原論	都市学	統計解析手法	河川流域の環境とその再生	マネジメント原論
3限	地盤の工学	コンクリート工学	海洋工学	技術移転と企業と	少人数セミナー
4限	国際コミュニケーションの基礎 I	基礎プロジェクト II / III / IV	基礎プロジェクト II / III / IV	社会基盤学倫理 (6限)	基礎プロジェクト I
5限	空間情報学 I				

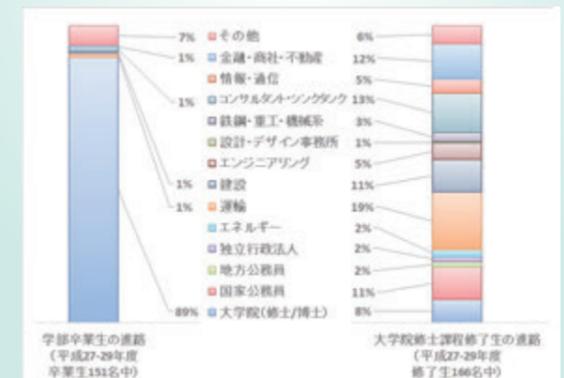
3年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 専門へのシフトと高度化

	月	火	水	木	金
1限		沿岸環境学			
2限	景観学	水文学	社会基盤のための経済・財務学 E	法学基礎	国際コミュニケーションの基礎 II
3限	空間情報学 II	プロジェクトマネジメント	構造物の信頼性設計とリスク分析	社会基盤技術の実務戦略	応用プロジェクト II
4限	応用プロジェクト III	構造設計特論 E	応用プロジェクト V	エネルギー開発の実践	地球環境学
5限	土地学	応用プロジェクト I	シビルエンジニアの活躍する世界	土地学	応用プロジェクト IV

卒業後の進路情報

国内外に多彩な活躍分野

本学科・専攻の卒業生は、政策立案やプロジェクト管理を行うプランナーやプロジェクトマネージャー、技術開発、設計・デザインを行うエンジニアとして、国内外を問わず多様な分野で活躍しています。その対象も、社会基盤学が取り組む課題の幅広さに応じて、地球環境から海岸・河川流域、交通、都市計画やまちづくり、橋などの構造物まで多岐にわたっています。今後は環境問題に取り組むエンジニアやまちづくりのプランナー、空間デザイナー、海外のプロジェクトマネージャーへのニーズがますます高まると考えられます。いずれの分野・職能を選んだ場合でも、他分野の専門家と議論し、協働できる柔軟性と多様性が求められるでしょう。



先輩からひとこと!



社会基盤学科では、自分の足で現地へ行き、目で見て手で触りながら学ぶことが出来ます。私は毎月新潟へ行き、コンクリートの塩害について研究しています。ハード・ソフト両面から日本の基盤について考えてみたい人、是非一緒に研究しましょう！



「定年後の街歩き」をテーマに、「まち」と「ひと」との関わり合いを研究しました。他にも九州のとある市のまちづくりに研究室で参加していたり、実践(実戦)的な研究はやりがい十分です！



景観研究室 高浜康巨 (Bコース)

スリランカ西海岸の侵食問題に取り組みました。現地調査や実験、数値モデルでの分析など、様々な側面から学べ、色々な技術が身に付きます！また、国際的な問題に取り組みたい人にもオススメです。



国際プロジェクト・海岸沿岸環境研究室 望月翔平 (Cコース)

基礎・応用プロジェクト、海外夏期インターン、一流の先生方、文武両道な学生たち etc. 研究面でもそれを越えた面でも様々な自分を成長させてくれるリソースにあふれた学科です。最先端の技術研究を行うのみならず、実際の現場で働く方々による多くのご講演機会やケーススタディー等を通じて社会的な側面を学ぶことができるのも魅力の一つです。国際プロジェクト研究室 遠藤礼子 (Cコース)